

第3回栗東市男女共同参画社会づくり推進協議会
議事概要

日 時	令和2年 2月18日（火） 10:00～12:10		
場 所	危機管理センター 大研修室		
出席者	（順不同敬称略） 【委 員】 勝身真理子、深田雅治、藤崎芳子、清水美由希、宮嶋清七、杉田聰司、 長谷川すみ子、森野公美子、藤田アニコー 栗東市男女共同参画社会づくり推進委員会幹事 【事務局】 市民政策部長、自治振興課 計画策定業務支援業者		
欠席者	4名	傍聴者	なし
議 題	①事業所アンケート結果について ②市民アンケートの集計経過報告について ③まちづくり女と男の共同参画プラン（第5版）における 令和元年度 各課取組み実績報告について		
資 料	1. 栗東市男女共同参画社会づくりに関する事業所アンケート調査 結果報告書 2. 栗東市男女共同参画社会づくりに関する市民アンケート調査 調査票 3. 栗東市男女共同参画社会づくりに関する市民アンケート調査 結果報告（項目抜粋速報版） 4. 令和元年度 まちづくり女と男の共同参画プラン（第5版）における 各課の目標と具体的な取組み		

1. 開 会

2. 市民憲章、栗東市男女共同参画都市宣言唱和

3. あいさつ

勝身会長 昨年12月に世界経済フォーラムが公開したジェンダーギャップ指数で、日本は153か国中121位だった。2006年は80位、昨年は110位だったので、ランクを落とした。特に政治経済の分野で日本は男女の格差が大きいという

結果が出ている。本協議会では、来年度の計画づくりに向けて、市の状況をつまびらかにして、いい議論にしたい。

市民政策部長 平成 11 年に「男女共同参画社会基本法」、平成 28 年には「女性活躍推進法」が施行された。しかし、女性の活躍が期待される中で、課題は多々ある。本市においては、「栗東市男女共同参画都市宣言」の具現化に取り組んでいる。事業所や市民に対するアンケート調査の結果からみえる本市の課題にも着目していただき、忌憚のないご意見や建設的なご意見を賜りたい。

(事務局より新委員として、藤崎芳子氏の紹介)

(昨年 10 月に逝去された桑田(前)委員に、全員で黙とう)

4. 副会長の指名について

勝身会長より森野委員を指名、拍手で承認。

副 会 長 この会議が円滑に進むよう、ご協力をよろしくお願いします。

5. 協議事項

① 事業所アンケート結果について

〈事務局より、資料 1「栗東市男女共同参画社会づくりに関する事業所アンケート調査結果報告書」に基づいて説明〉

会 長 ご意見、ご質問をどうぞ。

委 員 回収率が低い(34.7%)理由は何か。

事 務 局 改善方法としては、職員が事業所を訪問する機会にお願いすれば、もう少し上がったかもしれない。前回は訪問時に手渡しでお願いしており、回収率は 38.3%だった。

委 員 回収率が低いので、参考値程度になるかもしれない。回収率を上げることが急務だ。

委 員 依頼の電話などがあれば、もう少し回収率が上がったのではないかと。分析結果は従業員数の規模別には出ていないのか。規模ごとに、取組み方は変わってくるのではないかと。

事 務 局 従業員数を聞いているので、クロス集計で出すことができる。また報告する。

会 長 もう少しクロス分析をして改めて報告をお願いしたい。今後は、アンケート調査結果と企業訪問時のヒアリングを組み合わせるなどして、全体として評価をするようにお願いしたい。また、育児休業を取得している人が男性で4人いるが、取得の状況や環境がわかれば優良事例として紹介していただけるのではないかと。そうした例があれば、周知していただきたい。

②市民アンケートの集計経過報告について

〈事務局より、資料2「栗東市男女共同参画社会づくりに関する市民アンケート調査 調査票」及び資料3「栗東市男女共同参画社会づくりに関する市民アンケート調査 結果報告（項目抜粋速報版）」に基づいて説明〉

会 長 ご質問等あれば、お願いします。本調査は継続で調査されているので、年代別、前年比較など、クロス集計を詳細にしていきたい。

③まちづくり女と男の共同参画プラン（第5版）における令和元年度 各課取組み実績報告について

〈事務局より、資料4「令和元年度 まちづくり女と男の共同参画プラン（第5版）における各課の目標と具体的な取組み」に基づいて、説明〉

会 長 日頃思っていることも含めて、ご意見。ご質問をどうぞ。

委 員 企業内人権研修「ハラスメントのない職場づくり」の参加者は何名だったのか。

事 務 局 担当課が所用で退席したので、後で報告する。

委 員 DV、セクハラ、パワハラともに言えるが、被害に遭って相談することもあるし、パンフレットを配ったり、パープルリボン運動など取組みはしていると思うが、その前の段階で防ぐことが重要だ。防ぐためにはコミュニケーション

ョンが大切で、非暴力コミュニケーションという言葉があり、研修や本もある。そうした方法を学ぶことで、自分と相手の感情がわかり、コミュニケーションを変えていくと、防ぐことができると思う。「ハラスメントのない職場づくり」というタイトルで研修会を開くと、そこに参加する人たちはすでに問題がある人なのではないか、と思われたくないので行かないという人もいるかもしれない。タイトルなどには、そのような言葉は使わない方が人をもっと集まり、広がるのではないかな。

事務局 講演会でもそうだが、硬いタイトルにすると人が集まりにくい。目的さえしつかりとしていけば、皆さんが集まりやすいタイトルにするのも必要だと考えている。

委員 同和問題もそうで、私は草津で人権講話をしているが、みんなは外国人から見た日本や、外国人の意見を聞きたがっている。目的ははっきりしているので、タイトルを工夫することがこれからは大事になってくるかもしれない。

会長 ハラスメントは企業側も関心が高いのではないかな。計画改定においても注目すべき点なので、現在の取組みや課題認識について、またご報告いただけるとありがたい。

人権教育課 より多くの人に来てもらうことを目標にするとともに、来ていただいた方に地域の人権啓発リーダーとして行動してもらうことを目標にしている。ネーミングは大切で、人権というと重い、難しい、硬いというご意見がある。人権問題を学んでいただくために、講座名を工夫していたこともある。同和問題については、住民意識調査で、もう必要ないという意見も多くある。そういう方にこそ、まだまだ解決していないことを学んでいただき、差別をなくす方に立っていただくことを目指していきたいので、講座のあり方等は見直ししながら、取組みを進めていきたい。

委員 資料に「各種研修会の案内等を各小中学校へ送付し、職員の意識向上を図っています。(学校教育課)」とあるが、どれくらいの人に参加したとか、数字的なところがわかれば教えていただきたい。

学校教育課 数字は持ち合わせていないが、校内ではハラスメントやパワハラ、人権、男女共同参画の研修はどの小中学校も必ず行っている。それ以上にしっかりと学ぶということで、校外の研修も案内している。

会 長 小中学校における男女共同参画の副読本の活用率 100%となっているが、具体的にはどのように活用しているのか。

学校教育課 県が出している「わたしもあなたも大切に」という副読本だが、中身は性別にかかわらずに互いを尊重し支え合うということを学んでいくというものになっている。具体的には、男の子、女の子のイメージについて、子どもたちに聞いているページがある。そこでは、男の子はがさつで女の子はおしとやかなどといった昔のイメージではなく、男女ともいろんな子どもがいるということを授業の中で学んでいる。また、心や体の変化も学んでいく。最終的には性差はあるが、一個人としてどのように生きていくのかが大事だということをしかりと学ぶために活用している。

会 長 小中学校でどの時間帯でやっているのか。

学校教育課 小学校では特別活動の時間や総合的な学習の時間に、主に担任が指導する。中学校では特別活動や保健の時間に、担任や教科担当が行っていると考える。

会 長 数値はどのようにして把握しているのか。

学校教育課 各小中学校に問い合わせて、学習に活用しているかどうか確認している。

会 長 子どもの教育はとても大事で、子どもたちの将来にも関わってくるので、すべての子どもに学習の時間が与えられることを引き続きお願いしたい。性に関する指導は、具体的にどう行われているのか教えてほしい。

学校教育課 性に関する授業は、小学校では1年生から行う。低学年ではお風呂の入り方などを通じて自分の身体について学ぶなど、発達段階に応じて行っている。中学年からは保健の学習もあるので、二次性徴についても学ぶ。時間数まではわからない。中学生では生殖に関わる機能の成熟が入ってくるし、H I Vについても保健の時間で学ぶ。発達段階に応じて中学3年生まで毎学年、学習を積み重ねている。

会 長 最近はSNSを通じて、性に関する犯罪に子どもたちが巻き込まれることもあるが、学校現場でどのようなことを課題として認識しているか。

学校教育課 SNSを含めたインターネットの活用については、性に特化しているわけではなく、使い方を間違えると自分も傷つくし人も傷つけるという人権的観点か

ら、小さいころから段階を追って学習している。スマートフォンは帰宅してから使用するのが大半で、家族がどこまで把握しているのかを心配している。

会 長 親も子どもにどう伝えるか悩んでいる。今後の取組みについて相談できたらと考えている。

副 会 長 資料に「栗東市技能取得教育訓練受講補助金制度」とあるが、どれくらいの利用者がいて、どれくらいの成果があるのか聞かせていただきたい。

事 務 局 調べて、後ほど回答する。

副 会 長 母子家庭の母親は手当されているが、未婚の女性の妊娠・出産に対しての支援はどうなっているか。

子育て応援課 婚姻の概念が変わってきて、未婚というケースもある。個々に状況が異なるので、相談員を配置して、その方の自立を阻害しないように個々の状況に応じた寄り添いの支援を行っている。

副 会 長 具体的にはどのような支援内容なのか。金銭的支援か、言葉がけだけなのか、妊娠から出産までの心理的なこともあるし、どこまでの範囲で取り組んでいるのか。

子育て応援課 金銭面ではひとり親に対し、児童扶養手当という国の制度がある。就労面では、商工観光労政課など担当課との連携で、(必要な支援に) つないでいる。妊娠などについては、内容によって保健師につないだり、県につないだりしている。

副 会 長 これから増えていくことも考えられるので、先手の取組みをしていただけるとありがたい。次に第5回目の「りっとう創業塾」というのは、どの程度が創業されて、継続されているのか。

事 務 局 調べた上で、後日回答する。

副 会 長 コミュニティセンターの「子育て講座」と、地域子育て支援センターの「子育て講座」は、どのような棲み分けとなっているのか。

生涯学習課 コミュニティセンターや児童館を使って「子育て講座」を開催しているが、

ネーミングについては、旧来のものを踏襲している。

副会長 年齢層や興味の対象や内容などについて違いがわかれば、もっと参加者が増えるのではないかと思った。また、資料には「保護者が集まる研修会等」とあるが、昔はPTAに力があり活発だったが、いまはどのような状況になっているのか。各種団体も高齢化しており、事業への参加も、いまは団体の呼びかけではなく個人の判断になっている。そのような状況をどうとらえているか、教えていただきたい。

学校教育課 栗東市では、ほぼすべての方がPTAに参加していただいている。ただ共働きの多く、会議や行事に時間を割くのは難しいため、スマートフォンで打ち合わせをするなど工夫しながら、学校のため、子どもたちのために活動していただいております、たいへんありがたいと感じている。PTA主催の研修会への参加人数は減ってきているが、たくさんの人に参加してもらうため、役員は日々工夫していただいている。

委員 何年か前から、講演会に参加していても子どもの行事などがあれば、途中で帰る人がいて困っている。民生委員としても聞いてほしい内容なのに。自分たちが何かをするということであれば、してくださる。先生方がおっしゃるには、講演会に行かなくてもLINEなどで情報が手に入るという形になっているらしい。

会長 企画段階から参加してもらうとか、みんなが集まる機会をとらえて情報を提供したり、いろんなやり方をしながらキーパーソンを育てていく。市でも情報発信の工夫をされていると思うので、この場で、議論ができたらと思う。

委員 定年後、年金生活をしながら農業をしている。今日も朝市をしていた。高齢者が中心に手作り野菜を販売している。男性中心で店を出しているが、女性が店に出て接客するという形にはならない。大半は、女性が前日に準備をして、男性が店に出る。先日、ある役員が提案として、奥さんに1万円の商品券をお礼として出そうという話があって、みんなビックリして喜んだ。

売る側とお客さんは大半が高齢者で小さい単位だが、生産者と消費者を超えたつながりが地域でできてくる。自治会や農業委員会などの組織を超えた個々のつながりが、楽しみになっている。そういう自主的な取組みが、ほのぼのとした人間的なつながりが、広がればよい。

LGBTについて、国会の中で生産性がないという言葉が出たが、非常に違和感があった。ここで男女共同参画や女性の権利について議論していても、

国会であのような発言が出てくるということに、非常に複雑な気持ちだ。

会 長 既存のつながりを越えた新たなコミュニティということでしょうか。
健康診断について伺いたい。日中、ひとりで子育てしている女性は、なかなか健康診断に行けないという話を聞く。受診率はどのくらいで、受診率を上げるためにどのような工夫をしているのか聞かせてほしい。

健康推進課 妊婦に絞っての把握はしていないが、受診の勧奨はしている。手元にデータがないので数字の回答は難しいが、さまざまな場面で勧奨はしている。

会 長 例えば、託児をつけるなどして、子育て期の人でも健康診断を受診しやすいような工夫はしているのか。

健康推進課 確かに子どもがいれば検診があっても出づらいということはあると思う。核家族では、ご両親に子どもをみてもらうのも難しいかもしれない。市内に一か所一時預かりの制度もあるが、今はそれくらいしかない。

会 長 受診率は把握されているのか。就学前の子どもには、小中学校のような段階に応じた教育をしているのか。

幼 児 課 何歳児に何をするといったはっきりした項目はないが、日々の生活の中で、自分の身体は自分で守るという土台を育てていけるよう、おむつが外れる頃から5歳児、卒園まで押さえている。男女の偏見もないよう、以前のように男児は青、女児は赤ということではなく、男女同じ色にしたり、男女とも自由に色を選べるようにしたりしている。保護者からの決めつけもあるので、保護者への啓発もしている。子どもの意思を尊重するような話をして、子どもの人権を中心に理解していただくよう、かかわりを深めている。

健康推進課 先ほどの特定健診の受診率は、平成29年は37%、特定保健指導の実施率は17.3%、40歳以上の男性で44%、40歳以上の女性で18.5%という状況である。特定健診は、40歳から74歳までの国民健康保険加入者対象の、生活習慣病予防を目的とした検査である。

委 員 SDGsの17の目標の中で、5番目はジェンダー平等についてだが、日本でジェンダー平等がまだできていない課題となっているので、ぜひ栗東市で目標達成ができればよい。これから一緒に、ターゲットも含めて注目していければと思うので、よろしくお願いします。

会 長 防災会議の委員はあて職とあるが、法律改正であて職だけでなく、識者も委員にできるとなっている。そのあたりの考えを聞かせてほしい。

市民政策部長 本市では今、地域防災計画の見直しに取り組んでいる。避難所運営ひとつをとっても、女性の視点は極めて重要なので、地区防災計画の策定支援の中で、女性の視点を取り入れていく必要が多々あると思う。来年度、小学校区9カ所中2カ所に支援していくので、防災対策に女性の視点を取り入れていきたい。

副 会 長 資料に女性消防隊が29隊とあるが、昔は100隊あった。それがどんどん減っている。自治消防に対して、どのような働きかけをしているのか。

市民政策部長 現在、各自治会に対して自主防災組織の設置をお願いしている。平時から防災・減災に取り組んでいただく、最小地域コミュニティ単位での取組みをいかに支援していくかということが大事だと考えている。124自治会ではほぼすべての自治会で自主防災の取組みをしていただいている。引き続き支援していきたい。また地域では、防災士を各自治会にひとり専任していただこうと、研修の経費を支援している。いかに防災リーダーを育成していくかという視点で取組みをしていきたい。

副 会 長 民生・児童委員の成り手もない。隣接地区と兼務している人もいる。これについてはどう考えているか。

市民政策部長 ご指摘通り、選任できていない自治会もある。今後は、選任の区域を考えていく必要があると思う。選任できていない自治会やそこにお住まいの市民をカバーできるような体制をつくりあげていく必要がある。向こう3年には新たな手続が始まるが、それまでに結論を出したい。

会 長 ご質問をいただいた数値に関する質問には答えていただくとともに、今後の資料には数字で示せるものは示してほしい。

5. その他

事 務 局 その他、協議事項はありません。

副 会 長 昨年、ラグビーのワールドカップで、「ワンチーム」という言葉があった。

これには2つの要素がある。ひとつは多様性の尊重で、もうひとつは自主性の尊重だ。多様性においては、お互いに異なる個性の輝きをプラスの価値として積極的に取り入れて協働していくということ。自主性は自らが考え、判断し、実行して豊かな生き方を目指していくということだ。男女共同参画社会づくりも、互いの人権を尊重し、認め合い、助け合い、多様性と自主性をうまく取り入れて、よりよい栗東のまちづくりのさらなる向上と発展に、皆さんとともに努めていきたい。ありがとうございました。

6. 閉会